

7月新講座

# 西洋中世美術と視覚文化

## ：見えないものを見る

講師 名古屋大学大学院教授 木俣 元一

キリスト教の中心である神は本来は姿の見えないものです。中世の人たちは、どのようにして、美術を使って眼に見えないものを表現したのでしょうか。また、どのようにして、美術を通じて見えないものを見ようとしたのでしょうか。この講座では、西洋中世の人々の「視覚」に一步踏み込んで、この問いかけについて考えたいと思います。



ラファエッロ (サン・シストの聖母)

開講日	テーマ
7月18日	見えるものと見えないもの：西洋中世美術の特質
8月1日	「心の眼」で見ること：《キリスト昇天》の図像学
8月29日	カーテンとヴェール：隠されたものが現れる
9月5日	「三位一体」をどう描くのか
9月19日	「聖なる顔」とのコンタクトを求めて

期間 7～9月

日時 金曜日 15：30～17：30

受講料 3ヵ月分前納 全5回 10,500円

教材費 3ヵ月分前納 1,890円

新入会の方は入会金4,200円が必要です。

お申し込み・お問い合わせは

名古屋市中区栄3の4の5

スカイル10階 TEL052-249-5553

 朝日カルチャーセンター